

# I 位置・自然環境

## Lage und natürliche Umweltbedingungen

海老名市は厚木市、大和市、座間市、綾瀬市、寒川町に囲まれて、神奈川県中央部に位置している。市の西側には県下有数の相模川が流れ、相模川によって形成された沖積低地と洪積台地に海老名市全域が含まれている。海老名市は相模川に沿って南北に長く、総面積は25.20 km<sup>2</sup>を占めている（昭和61年3月1日現在）。標高的には相模川流域の海拔6 mから洪積台地の海拔約85 m（上今泉）まで差が少なく、いずれも温暖な常緑広葉樹林帯に含まれている。

海老名市は古くから農耕地として開け、沖積低地は主に水田、洪積台地は広く畑地として土地

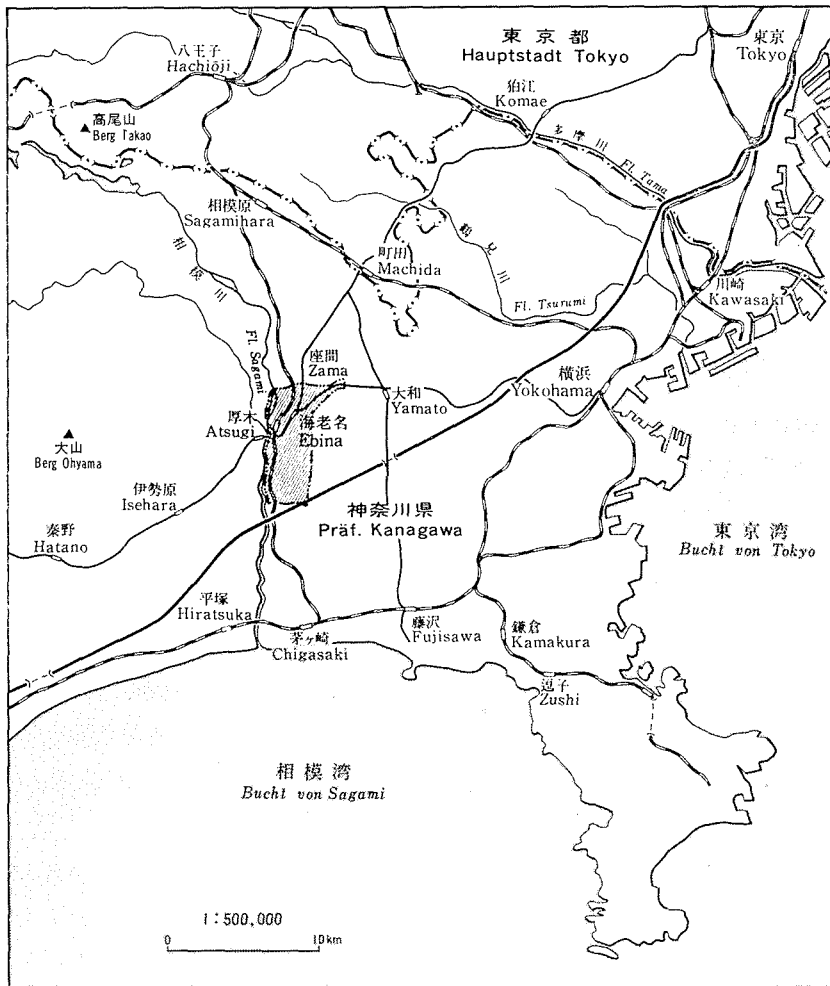


Fig. 1 位置図 Lage der Stadt Ebina.

利用が行われてきた。昭和36年1月1日現在の土地利用では市域の61%が田畑、8%が山林、宅地はわずかに8.4%であった。しかし、最近では大都市東京と横浜のベッドタウン化現象、工場誘致が進み、市域に占める宅地の割合が45%に急増している(昭和59年1月1日現在)。対照的に田畑は43%、山林は5.3%と減少を辿っている。ちなみに人口密度も712人/km<sup>2</sup>(昭和35年10月1日現在)であったのが、3,722人/km<sup>2</sup>(昭和61年2月1日現在)と5倍近くに急増し、今日では93,891人(昭和61年3月1日)の市民が生活を営んでいる。交通網の整備も進み、東名高速道路、国道246号線などの主要道、小田急線と相模鉄道の私鉄が通るようになった。

## 1. 気 候 Klima

海老名市は太平洋側気候下に属している。夏季は降水量が多く、その大部分は梅雨期と夏から秋に襲来する台風によってもたらされる。冬季は晴天の日が多く、丹沢や大山のよくみえる季節である。降雪は少なく、降っても数日でとけてしまう。1年間の総降水量は約1,700mmに達している(吉野 1967)。気候は温暖で、年平均気温が14°Cを示している。最寒月となる1月の月平均気温は4°Cとなっている。植物の生産活動は約5°C以上で行われるとして、1月は常緑植物の休眠期になる。日最低気温が0°C以下になることもしばしばあり、霜柱や氷も張る。最暖月は8月で、月平均気温は23°Cに達している。日中気温は30°Cを越すことも多く、そのまま気温が下がらず熱帯夜となることもある。

海老名市は暖温帯の常緑広葉樹林が育つに十分温暖な地域で、人々が生活していなければ、シ

Tab. 1 気 温 と 降 水 量  
Temperatur (°) und Niederschläge (mm) 海老名市観測所, 消防本部

年 ・ 月	上 旬		中 旬		下 旬		月平均 気 温 (°C)	月 平 均 降 水 量 (mm)
	気 温	降水量	気 温	降水量	気 温	降水量		
昭和60年 1月	4	1	4	35	4	10	4	46 ( 7.5)
2月	7	63	6	56	5	22	6	141 ( 97.0)
3月	9	2	8	61	10	53	9	116 ( 54.5)
4月	15	0	14	101	18	34	15	135 ( 48.0)
5月	20	5	21	13	20	2	20	20 ( 83.5)
6月	22	—	19	—	20	—	20	— (410.0)
7月	—	—	—	—	—	—	—	— ( 57.5)
8月	28	—	28	5	28	55	28	60*( 52.5)
9月	28	2	23	23	19	57	23	82 ( 52.0)
10月	19	42	17	28	15	9	17	79 ( 52.0)
11月	15	101	11	0	10	25	12	126 ( 97.0)
12月	8	14	4	0	5	1	6	15 ( 11.5)
年 平 均							14	820*(1,023)

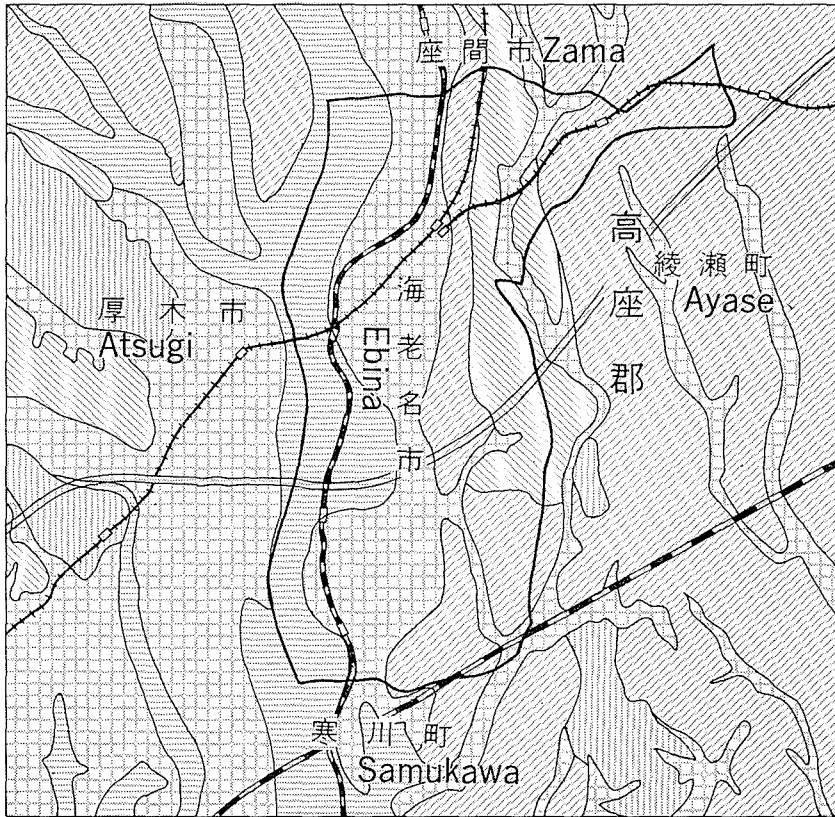
(注) 表中の—は欠測を示し、\*印付きの値は欠測を含んだ値を示す。

( ) は海老名市消防本部による。

ラカシ, アカガシ, タブノキ, スダジイなどの優占する常緑広葉樹林でおおわれていたと判定されている。

## 2. 地形・地質 Topographie und Geologie

海老名市は相模台地と相模川によって形成された相模平野で構成されている。相模台地は約180万年前に始まる更新世の後期に, 地盤の上昇と海水準の低下に伴って台地化した洪積台地で



凡例 Legende

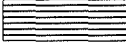
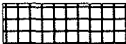



- 
砂・礫  
Sand, Kies
河成の円礫を主とする堆積物で, 砂泥も含まれる。沖積層。
- 
泥  
Schlick
各平野の後背湿地の泥がち沖積層, 各丘陵, 台地の侵蝕谷底を埋める泥がち沖積層。
- 
武蔵野ロームおよび立川ローム  
Musashino, und Tachikawa-Lehm
相模原台地のローム層
- 
下末吉ローム  
Shimosueyoshi-Lehm
高座丘陵, 伊勢原台地のローム層
- 
多摩ローム  
Tama-Lehm
座間丘陵, 愛甲台地および大磯丘陵の土沢ローム層

Fig. 2 海老名市周辺の表層地質図 (国土庁土地局 1975)。

Geologische Karte (Landesamt 1975).

ある。表層には厚さ15～20mに達する関東ロームが覆い、東京西郊の武蔵野のローム層に対比されている。海老名市域では海拔30～60mの間でなだらかな丘陵や平坦地が形成され、主に畑地として土地利用がされている。

相模平野は約1万年前に始まる完新世に、相模川の堆積作用によって形成された沖積低地である。海拔12～25mの間に平坦な地勢を呈し、湿潤な立地を反映して多くの水田がつくられている。

沖積低地と洪積台地の境界には相模川と平行して南北にのびた段丘斜面が連っている。段丘斜面は10～20mの高度差があり、比較的急斜面からなっている。母材のローム土は軟かく、小さな侵食や崩壊をきたしている箇所も少なくない。

## Ⅱ 植 生 概 観 Übersicht der Vegetation

海老名市は高度差が100mに満たず、しかも相模川、沖積平野、洪積台地という平坦な地形が多いため、開発には最適な状態にある。古くから農耕地が開け、最近では宅地化が頻繁に行われている。このような状況下で常緑広葉樹林などの自然植生が残されるのは、きわめて限られている。社寺林や屋敷林として、あるいは開発の困難な段丘斜面に小面積でみられるにすぎない。現在、残されている常緑の樹林や樹木は市の保護保全指定を受けているものが多い。沖積低地上では河原口宗珪寺のタブ林、中野の八幡のタブ林、本郷のタブ林、段丘斜面から洪積台地上では、上今泉の段丘斜面のタブ林、産川台のシラカン林、上今泉のシラカン林などがみられる。

同じ森林植生でも管理が行われているクヌギ、コナラの雑木林、スギ、ヒノキの植林は洪積台地上と段丘斜面に発達がみられる。クヌギ、コナラ林は上今泉、滝ノ本、清水寺公園、宮台などに比較的残されているが、新興住宅の造成により年々姿を消している。スギ、ヒノキ植林は滝ノ本、大久保、星谷、下谷津などに点々とみられる。

沖積低地は広くイネが水田に栽培されており、二次的にコナギ、キカングサ、アギナン、ウキクサ、アオウキクサなどの雑草が生育している。放棄されてまもない水田には、タマガヤツリ、カワラスガナ、チョウジタデなどの1年生植物が生育するが、2～3年たつとヨシ、ガマなどの多年生の高茎草原に変化するのがみられる。沖積低地上の集落では、相模川沿いの自然堤防沿いに、下今泉、河原口、今里、中野、門沢橋などがみられ、古い家屋には、タブノキ、ケヤキからなる屋敷林がみられる。

洪積台地上には広く耕作畑が広がり、栽培植物にまじって、スベリヒユ、コニンキソウ、カラスピシヤク、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、メヒシバなどの雑草が生育している。放棄された畑地ではカナムグラ、ヒメムカンヨモギ、ススキなどが雑草群落を形成している。台地上にはまた、クリやウメなど果樹園、苗圃、北部の上今泉では桑畑などもみられる。段丘斜面は森林の残